

それいけ! 防災備蓄倉庫探検隊

市民記者が関市の備蓄倉庫を徹底検証!

隊員全員「おー!」

北村隊長「よし、じゃあ、西木戸の倉庫へ出発だ〜」

古川隊員「ハイッ! いざ災害が起こってまった時に、倉庫の中身は、本当に、私たちを助けてくんさるのか、この目で確かめます。」

北村隊長「備蓄倉庫探検隊全員集合!! お前ら! 今日は、関市の防災備蓄倉庫の中には、どんな物が入っているのか、徹底的に検証するぞな〜!」



1. 備蓄倉庫には、こんなのがあった!

北村隊長「今日は、防災指導員の桜井さんに、説明いただきながら、調査していく。まずは倉庫の中に何があるのか、探せ〜!」

平川隊員「隊長! こんなものが出てきました!」



①災害用炊飯装置

大きな木箱のふたを開けると、そこには昔で言う所の端反(ハソリ=平釜・大鍋)が。災害時には、これでご飯を炊いたり、味噌汁を作ります。燃料はガスですが、非常時には薪を燃料として使うこともできます。



②飲料水ろ過装置

災害時に一番困るのが飲料水の確保。筒状のタンクにホースのついた、これが飲料水ろ過装置。排水路やお風呂の水は適さないので、川やプールの水であれば、この装置でこして浄化し、飲料水が調達できます。



③アルファ米

ダンボール箱を開けると、アルミの包装紙に包まれたアルファ米が。そこにお湯を入れるだけで五目ご飯の出来上がり。アレルギー体質の方のためには、市の方で白米のアルファ米が保管されています。



④簡易トイレテント

軽くて丈夫な段ボール製の簡易トイレは、組み立ても簡単で、使用時のプライバシーを守るためにテントが付いています。テントは一瞬で形になり、設営はとても簡単。テントの中には、頭上が広くて動きやすいです。

2. 市民記者たちの疑問!

北村隊長「お前達、何か気になったことはあるか?」



古川隊員

備蓄倉庫って近くにあっていい?

備蓄倉庫が、家の近くにはないなと思っている人も少なくないのでは…。地域によって年齢層や人数が異なるので、中身はどのような違いがあるのでしょうか?

桜井さん

現在、市内に67基設置しています。これから200~300世帯を目安に設置が進められており、年間3基ずつ増やしていく予定です。倉庫の内容は全て一律です。



三輪隊員

あれ! 飲み水が1本もないですね

備蓄倉庫というと、中には非常食や水が入っているのだと思っていましたが、中を見てびっくり! 水がどこにもありません。ろ過装置でプールの水などをろ過して飲み水にするということですが、ろ過できる水も、排水路やお風呂の水は微妙…などと基準があいまいで、安全な水が確保できるのか疑問に感じました。

桜井さん
(関市防災指導員)

夏場腐りやすくなるので、水そのものは置いていません。100トンの飲料用貯水槽が市内に2箇所ありますし、ペットボトルの水を市役所で一括管理しています。また、災害時に飲料水を含め食料などを提供してもらおうと地元スーパーと協定を結んでいます。

三輪隊員「なるほど。それでも、飲み水は、すぐに欲しいものだし、やっぱり不安…」





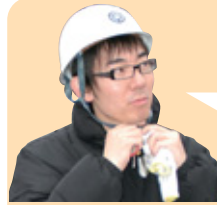
吉田隊員

いざ、災害が起こったときを考えると、細かいところに不備があるのでは？

- ガスバーナーがあるのにガスがない。アルファ米を炊くにしてもまずはお湯を沸かさなければいけません。しかし火を起こすことが大変なのではないでしょうか？
- 懐中電灯が1個しかない。災害が夜に起きたら倉庫の中は真っ暗な状態になり、道具を取り出すにも灯りがないと混乱してしまいそうです。

桜井さん

今は、2、3日すれば、他地域からも救援がきます。備蓄倉庫は、「まずは救助」を想定し機材を準備、食料なども2、3日をしのぐためのものという位置付けです。



上野隊員

鍵を持っている防災指導員が被災したらどうなるの!?

備蓄倉庫の鍵を保管しているのは防災指導員の皆さん。では、もし防災指導員が被災してしまったら、誰が鍵を開けてくれるのでしょうか。また、関市に新しく来られた方が多い地域では、自分の地域の指導員が誰なのか名前を見るだけで分かるのでしょうか？

桜井さん

指導員以外にも鍵をもっている人がいますので、そういった場合でも大丈夫です。また、倉庫の入り口に管理者の連絡先が書いてありますので、顔が分からなくても連絡できます。

3. 備蓄倉庫探検隊 が出した結論!!

自分のものは、自分で準備せよ。特に食料は大切!



下村隊員

備蓄倉庫は、予想と違っていました。「備蓄」と聞いて食料や飲料水がたくさん入っているのを想像していたからです。

しかし、実際は発電機や簡易トイレなど、設備として必要な物が多い。これは被災地域の「対策本部」設置に必要な物が中心である、と感じました。

実際、食料などは最低限しか用意されていません。突然起きる災害には、市民だけでなく、偶然被災してしまう人もあるでしょう。そういった人の分まで食料などをまかなえるように揃えることはかなり難しく、考えてみれば当然です。

では、われわれ市民はどうすればよいのでしょうか。

備蓄倉庫で準備する物には限界があるのなら、自分の命は自分で守るしかない。

これをきっかけに被災した時の最低限必要なものを各自が各家庭で話し合い、用意することを勧めます。用意する時は「食料」「飲料水」はもちろん、「懐中電灯」「ラジオ」など自分自身が使う物も忘れずに準備しておきましょう。

4. さあ準備をしよう 行政にはこんな制度があります

平成20年4月から「関市防災資機材整備事業補助金」がスタートしました。自治会や自主防災会が、防災についての資機材を購入する場合に、総事業費の1/2(上限20万円)の補助を受けることができます。

地域で話し合っ、各地域の環境に合わせた資機材の助成を受けるといいですね。

地域への助成金制度があるんやと



小鞠隊員

知らなかった…。防災マップ・防災のてびきを全戸配布しているそうです



竹川隊員

避難場所、備蓄倉庫の場所などの書かれた防災マップ。そして、もしも災害が起こったときにどのように行動すればいいかなどが書かれた「防災のてびき」を、以前、関市では全戸に配布されたそうです。欲しい方、「そんなもん、捨ててしまった」という方、左記までお問い合わせください。

防災のてびきは

HPでも紹介しております。

http://www.city.seki.gifu.jp/bousai/index.htm



照会先

交通防災課 ☎ 7736

市民記者 上野元志、加納裕泰、小鞠敦、下村由美子、竹川奈穂、平川貴久、三輪美寿香、吉田宰志、古川陽子、北村隆幸
コーディネイト団体 特定非営利活動法人せき・まちづくりNPOぶうめらん

平成21年度 市民記者募集

くわしくは
広報課まで